

WHO「世界禁煙デー」スローガン「Tobacco-a threat to development(健康と経済発展への脅威であるタバコ)」

喫煙が引き起こす健康被害は、さまざまだが、泌尿器科の分野でもぼうこうがんなどの原因になるといわれている。最近耳にすることが多くなった勃起不全(ED)も血管の障害が原因で起こる症状。EDと喫煙について大阪大学大学院医学系研究科助教(泌尿器科学)の福原慎一郎氏に話を聞いた。

—EDとはどんな疾患か。

EDは、満足な性交渉をするための十分な勃起を発現できない、あるいは維持できない状態をいう。心因性と器質性に分けることができる。日本では患者が1千万人いると推定され、来院する患者は五十代から七十代が多い。

日本人は世界的にあても飛びぬけて性生活在た泊なので、あまり問題視されていないが、日本以外の先進国では、EDは大きな問題としてとらえられている。

大阪大学大学院医学系研究科助教(泌尿器科学)
生殖医療専門医、性機能専門医

福原慎一郎氏に聞く



—何が原因で発症するのか。

加齢、高血圧、糖尿病などと併せて喫煙がリスクファクターに挙げられている。ヘビースモーカーが1か月禁煙すると、症状が改善したという報告がある。動物実験の段階だが、喫煙が陰茎内の血管の組織に悪影響を与えるという結果も出ている。

また、勃起時に陰茎が変形してしまふペロニー病では、喫煙で発症のリスクが4・6倍になるとのデータがある。勃起は、陰茎内の血管に血液が流れ込んで起こる現象。器質性のEDは、血管に障害が起こることによって発症する。陰茎に血液を送る動脈の直径は1・2mmで、およそ3mmある心臓の冠動脈より細い。なので、EDの診察を受けることで、血管の状態がわかり、心筋梗塞が予測されることもある。

—治療法は。

基本的に対症療法しかない。厚生労働省に認められている勃起不全改善薬を内服する。

EDや陰茎変形の原因に

必ず専門医の受診を

血管を広げる薬なので、心筋梗塞や狭心症がある人は内服が可能か医師への相談が必要だ。

—最近、偽造薬がネット販売されるなどのケースがあるが。

勃起不全改善薬は、医師の処方がないと入手できない。怪しげな偽物に手を出さず、一度傷んだ血管を元に戻すことはできない。それだけに、血管に悪影響を与える喫煙は、絶対に避けてほしい。



喫煙は勃起不全を引き起こすと明記した海外のタバコパッケージ(図は、しめ氏提供)

たばこなき社会目

きょう「世界禁煙デー」

たばこのない社会の実現を目指して。きょう31日は世界保健機関(WHO)が制定した「世界禁煙デー」。今年のテーマは「Tobacco-a threat to development(健康と経済発展への脅威であるタバコ)」だ。厚生労働省も「2020年、受動喫煙のない社会を目指して～たばこの煙から子ども達をまもろう～」をテーマに6月6日までの期間中、さまざまなイベントを展開する。



WHOの「世界禁煙デー」ポスター

神戸市医師会看護専門学校副校長、看護師

小倉 宮江氏に聞く



神戸市医師会看護専門学校(神戸市西区)では、学生に禁煙を促す取り組みを続け、現在は学校から2キロ圏内が禁煙区域になった。活動を指導し、見守ってきた副校長の小倉宮江氏にこれまでの経緯を聞いた。

—医療従事者に、受動喫煙者が多いようだが。

准看護師として仕事をしながら、通っている学生が多く在籍した「第2看護学科」があった時代には、職場で喫煙する先輩や同僚が多かったのか、学内でも喫煙する学生が目立った。実際、日本看護協会の01年の調査でも看護職の喫煙率は25・7%と高い状態だった。

03年に、「指導方法」の教科で、後輩への禁煙指導を行う取り組みを展開。その時点

学校から2キロ圏内を禁煙に 看護職の喫煙率減少に成功



では、「時と場所をわきまえていれば、喫煙しても悪くない」と考える学生もいた。09年には、また校庭で喫煙している学生がいて、しっかりと禁煙促進をしようと思った。

当時の喫煙状況を考慮し、1年間の期限を設けて学内に喫煙コーナーを設置して「隠れ喫煙を防止した。その後、学校を出て近隣の飲食店で喫煙する学生が増えたが、飲食店側も禁煙活動に協力してくれて、10年には、学校の周囲

2キロ圏内が禁煙区域に成功した。喫煙率も大幅に減少した。看護職の喫煙率減少に成功した。

